

第3回 大阪市立光陽特別支援学校 学校協議会 実施報告書

校園名 大阪市立光陽特別支援学校

校園長名 柳川 敏美 印

日時	平成28年2月16日(火) 10:00~11:20 (1時間20分)	
場所	大阪市立光陽特別支援学校 校長室	
出席者	花木真(会長)、鎌倉義雄(委員)、田中正子(委員)、由井 智子(委員) 岩元 康(委員)、宮本正路(委員) 柳川敏美(校長)、押井泰子(教頭)、吉田伸哉(教頭)、酒井友行(首席) 林 佳巨(首席)、古沢宏明(指導教諭)、濱澤和之(学部主事)、岡本一恵(学部主事)	
議題	(1) 運営に関する計画の最終評価について	
協議 要旨	協議の結果	意見の概要
	<p>(1) 「運営に関する計画」 《最終評価》(別紙)として、自己評価について、各視点別に報告した。</p> <p>また、テレビ会議システムを活用し、市大病院分教室の紹介を行った。</p> <p>取組状況及び自己評価については2点訂正があったが、その他において了承された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用については、肢体不自由の児童生徒、病院に入院中の子どもたちにも有効な機器となっている。地域の学校も含めて、光陽の取り組みは先駆的だと思われる。 ・防災の取り組みについては、さらに充実してきたのではないかと。今後は地域の連合町会との連携の中で防災訓練等を実施できればと思う。そのためにも、地域の方々にさらに光陽特別支援学校のことを知ってもらうことが必要である。 ・救急対応についても普段の実践とともに、研修や訓練を積み重ね、教職員の意識の向上が感じられる。また、薬の預かりについては、あくまでも自己責任のもと、学校としては緊急時に備えるための管理体制を進めてはどうか。 ・特別支援学校の役割として、未就学の子どもの保護者を対象に学校公開をされているが、そのことで年齢が低い保護者もより先の見通しをもてる機会になっている。 ・地域の学校園の保護者が特別支援学校を見学することで、入院すると学習保障の機会が特別支援学校で得ることができることを知る等、非常に有効な機会になっていると思われる。
協議資料	○運営に関する計画《最終評価》 ○校長室だより No5-7	
備考	傍聴者[0]名	